

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日時 平成28年11月〇日(〇)

2 学年・組 第3学年〇組

3 指導事項(単元の目標)

(1)A 話すこと・聞くこと ア

社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。

(2)伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 第2学年 イ(オ)

相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

4 単元名 社会との関わりを伝えよう ー相手や目的に応じたスピーチをする

5 本単元における言語活動

時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
2016年のニュースの中から自分に影響を与えた話題を選び、根拠を挙げようとしている。	選んだ話題について、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、フリップなどの資料などを活用して説得力のある話をしている。	相手や目的、時間や場の条件に応じて、話の展開に違いがあることを理解している。

7 単元について

○生徒の状況

これまで「話す・聞く」の学習に関しては、文章をもとに意見を交流する等グループやクラス全体で交流する学習活動を行ってきた。昨年度の「基礎・基本定着状況調査」の「聞くこと」の通過率は「共通点と相違点の聞き取り」や「話し合いの方向性をとらえる」ことにおいて9割を越えている。しかし、「話すこと」に関しては、相手や目的を明確にした学習は行っておらず、自分の考えを述べる場面では一部の生徒に頼る傾向にあり、自分の言葉で表現することに苦手意識を持つ生徒もいる。

スピーチについては、夏休み以降、帯単元として授業開始時に数名ずつ行っている。構成を工夫しながらスピーチを行う生徒も多くいるが、下を向いて話したり、言葉が足りず伝わりにくかったりするなど、相手意識が明確でない生徒もいる。

○教材の価値

本単元は「自分と社会との関わり」の中に話題を見つけ、聞く人の心に残るスピーチができるような学習の場を設定した単元である。卒業や入試を控えるこの時期、社会で起こる様々な出来事に関心を持ち、その出来事と自分自身の知識や経験を結びつけて考えるのにふさわしい教材となっている。また、相手や目的に応じたスピーチをするために、話の構成や実際のスピーチの場面で注意することが具体的に示してある。それをふまえて、聞き手に伝えるためにはどのような語句や文が効果的であるかを考えるなど、相手意識や目的意識を持って取り組むことができる教材となっている。

○指導の工夫

導入では、生徒にあらかじめ、授業でスピーチするだけでなく、ビデオに録画して成人式で見る、校長先生にも見ていただくことを伝え、意欲を喚起させたい。また、このことは、相手や場にふさわしい語句の選択や話し方を考えさせることにつながると思われる。

学習課題には「自分に影響を与えた」という視点を設け、社会で起こる様々な出来事を自分との関連付けを考えながら取り組ませたい。さらに、多様な選択が生まれるとともに、構成や資料の使い方などの効果的な使い方を考えさせることをねらい、話題は5つに設定した。その際には、選んだ話題について「自分の経験や知識を整理して考えをまとめ」るために、事実や体験と自分の意見を明確にできるように付箋紙とワークシートを組み合わせ活用する。フリップやスピーチ原稿の作成には時間をかけず、説得力のあるスピーチをすることを意識させたい。

本時では、授業の前半にスピーチを聞く立場から考えて、どこに興味があるかを交流するためのグループ活動を仕組み、構成を考えさせるための支援としたい。

8 指導と評価の計画（5時間）

次	時	学習内容	関	話	言	評価規準
一	1	学習の見通しを持つ。2016年のニュースベスト5を選ぶ。	○			自分に影響を与えたニュースについて、選んだ根拠を挙げている。
	2	説得力のあるスピーチをするためのポイントを確認し、選んだニュースに関する自分の経験や知識を整理する。		○	○	相手や目的、時間や場の条件に応じて、話の構成に違いがあることを理解している。 自分の経験や知識を整理して考えをまとめている。
二	3 本 時	スピーチの構成を工夫し、メモを書く。		○		主張や理由をどのような順序で述べるのが効果的か考えてメモを書いている。
	4	メモを推敲し、よりよく伝えるための工夫を考える。		○		説得力のあるスピーチにするための語句の使い方や資料の活用の仕方を考えている。
三	5	スピーチを行う。		○		これまでの学習を活かして、説得力のあるスピーチをしている。

9 本時の目標

- ・説得力のあるスピーチにするために主張や理由をどのような順序で述べるのが効果的か考える。

10 本時の学習展開

学習活動	指導上の工夫・留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返る。 ・本時のねらいを知る。 		
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>説得力のあるスピーチにするために効果的な構成を考えて、メモを作ろう。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・構成メモを作成する。 ・作成した構成メモを交流し、より説得力のあるものを選び合う。 ・選んだ構成メモを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく聞きたいところ、興味があるところをグループ内で交流させる。 ・画面に構成メモの例を示す。 ・説得力のあるスピーチにするために、グループの人の意見をふまえ3分間のスピーチの中でどの部分をピックアップするか、どのような資料が効果的かを考えさせる。 ・早くできた生徒にはいくつかのパターンを作成させる。 ・ペアで交流し、選んだ理由を伝え合う。 ・資料の提示の仕方やタイミング、どのような資料が必要かなどを考えさせる。 	<p>A：主張や理由をどのような順序で述べるのが効果的かいくつかのパターンを考えて、よりよいものをもとにメモを書いている。</p> <p>B：主張や理由をどのような順序で述べるのが効果的か考えてメモを書いている。</p> <p>ワークシート・付箋</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・順序やピックアップする部分など、どのように工夫したか振り返る。 ・次回、メモの推敲と資料の作成を行うことを伝える。 	<p>授業記録表に記入する。</p>	